



境内の花々

INFORMATION

報恩講のご案内

報恩講ご案内

日 10月24日(水)

時 11:30 お斎
13:00 勤行
14:00 法話

講師 藤内和光 師
(いわき市明賢寺住職)

15:30 終了

持ち物 念珠

年に一度の親鸞聖人の御命日法要です。昨年度より講師にいわき市明賢寺住職・藤内和光師をお迎えしております。聞法の機会となりますのでぜひお運びください。

同朋会コーナー

九月同朋会より

住職法話『無明の闇(むみよのあん)』

自然災害をはじめとし、私たちの思いを超えていろいろなことが起こってきます。その時、私たちは「普通」が「普通」でないことに初めて気づかされます。仏教では「普通」にしている物事がみえていないこと、を『無明』と言います。そして「目には見えていないけれども確かなこと(真実)が見えないこと」を『無明(むみよ)の闇(あん)』と言います。自分が普通だと思っていたことが「普通」ではないように、自分のことは自分が一番よくわかってるんだ、という思いは実は確かなことではないのかもしれない。

前住職法話一部抜粋『歎異抄 後序』より

「信心」について。親鸞聖人は法然上人の下で学んでいた頃、先輩僧と「信心」について争論をします。親鸞聖人が「私の信心も法然上人の信心もひとつである」と言われたのに対して先輩僧たちは「ひとつであるはずがない」というのです。これは「救いの平等性」について言っているのですが法然上人は「救いの平等性は ただ念仏 だけが保証する」とおっしゃっています。しかし、「ただ念仏」と言っても「称える」という行為を根拠にすると人間の能力の問題になってしまいます。一回より十回、十回より百回称えた方が救われるというように、そうではなくて称えられた念仏(称名)を聞く(聞名)。仏の願いを聞き受容する。するとそこには新しい世界が開かれてくる。それが救いなのです。そして、この「聞く」ということは能力と関係なく誰にでもできることなのです。

次回 同朋会のご案内

十月十三日(土)

午後一時～三時半

茶菓代 500円

持ち物(あれば) 勤行本・数珠

どなたでも参加できます。

『徳泉寺報』後記

つぎつぎ起こる自然災害や事件事故。当たり前が当たり前でないことは分かっているつもりでもそのたびに心痛みます。そして今年も彼岸花が咲きキンモクセイが香ることをありがたく思います。